

学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	山田 祐 輔
審 査 委 員		主 査 氏 名	桂 下 真 司
		副 査 氏 名	渡 邊 望
		副 査 氏 名	永 延 清 和
[論文題名]			
Changes in coagulation factor XIII activity during resuscitation for hemorrhagic shock			
[要 旨]			
<p>出血性ショックにおける FXIII 値の変化を明らかにするため、単施設の前向き観察研究を行ない、出血性ショックに対する蘇生中の FXIII 活性値、および血漿輸血により十分な FXIII 活性を維持できるかどうかを明らかにした。成人出血性ショック患者 31 名が本研究に登録された。到着時 (T1)、止血完了時 (T2)、2 日目 (T3) に採血を行った FXIII 活性は観察期間を通じて上昇しなかったが、フィブリノゲン値は上昇した。FXIII 活性は止血前後ともに変化しなかった。FXIII が十分であった患者の割合は減少し、フィブリノゲンの割合は増加した。FXIII とフィブリノゲンの比率の差は T2 と T3 で異なる傾向があった。FXIII 活性は止血完了前の血漿輸血にかかわらず変化しなかった。FXIII 活性が十分なレベルにある患者の割合については、T2 では血漿輸血のない患者の 27%、T3 では 0%に過ぎなかった。血漿輸血によって FXIII 活性の十分なレベルが維持されたのは T2 では 44%、T3 では 27%に過ぎなかったが、フィブリノゲンの十分なレベルは T2 では 67%、T3 では 91%で維持された。FXIII 活性は出血性ショックの初期には低く、血漿輸血を行っても、蘇生中 FXIII レベルは十分に維持されなかった。</p> <p>上記は学位論文に値すると判断した。</p>			